

令和7年度 京都府立与謝の海支援学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針(中期経営目標)	令和6年度学校経営計画の成果と課題	本年度学校経営の重点目標（短期目標）
◇一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程づくりを進める。 ◇自立と社会参加する力を育てるために、基礎学力の充実に努めるとともに進路指導の充実に図り、希望進路の実現を目指す。 ◇安心・安全な学校環境の整備を行う。 ◇地域における特別支援教育のセンター的役割の推進に努めるとともに、教育、医療、保健、労働、福祉等の関係機関、家庭及び地域社会との連携を行う。 ◇専門性の向上に向けて研修を充実させ、指導内容や指導方法の工夫改善を行う。 ◇教育財産の継承に努め、「与謝の海の教育」の発展・向上を図る。	○授業研究や教育課程検討会議等を通して、12年間の学びのつながりを検証したり、行事プロジェクトの立ち上げによる行事や取組の見直しを図ったりして、教育課程の見直しを行った。社会の変化に応じた自立と社会参加の力をつけることを目指した教育課程の編成と実施に向け、引き続き見直しを図る必要がある。 ○保護者等と丁寧に指導目標を共有しつつ指導、支援を進めた。また、関係機関との連携も積極的に行い、児童生徒理解を深め、指導、支援につなげた。 ○地域とつながる授業づくりについて全校で研究を進め、児童生徒の変容からその意義を全校で確認できた。今後も地域協働学習の意義を確認しつつ12年間つながりある教育課程づくりを進めていく。 ○進路指導部が中心となり、保護者や関係機関と連携しつつ、進路指導を行った。ワークショップ形式で実施した福祉事業所・職業訓練校説明会は、対象を全学部保護者等に広げるとして進路取組を進めた。今後も系統的な視点をもった進路指導の充実に図る。 ○地震発生時の連絡や不審者対応等について安全防災計画の見直しを図った。PTAと連携し、引き渡しカードの使い方についても保護者等と共有することができた。自然災害、不審者対応等について、あらゆる想定下での訓練実施は引き続きの課題である。 ○各学校や関係機関等と連携を深め、長期にわたりステージ間移行期の成長について確認したり、支援や進路先等について話し合ったりしつつ地域の支援力の向上につなげた。 ○各分掌等が必要に応じて計画し、年間を通して多くの研修を実施し専門性を高めた。今後、年間を通してより効率よく教職員が学び、児童生徒の指導、支援に生かせるように学びのプログラムを構成する。 ○各分掌や担当の部長等を中心に各取組や行事等をスムーズに進めた。一方、気候変動の影響もあり、従来通りの教育活動の実施が難しくなっており、来年度に向けて変更案の検討を進めた。変更後のスムーズな運営を図るため分掌や業務内容の見直しが必要である。 ○ホームページのリニューアルを進めるとともに、更新回数も大幅に増やし、保護者や地域への学校教育の発信に努めた。教育内容をより具体的にタイムリーに発信するための工夫が必要である。 ○ICTの活用や会議の効率化などを進め、業務改善を図ったが、業務内容の平準化については課題が残った。分掌やその業務内容の見直しを含め、さらなる改善が必要である。 ○研修やその後のアンケート調査等を通して、府民の信頼を得られるようコンプライアンスに係る意識を高めた。	【教育課程】 ◆小学部から高等部の12年間や卒業後の生活や就労、校種間等の学びの連続性を踏まえ、児童生徒の能力や可能性を最大限に引き出し、社会の変化に応じた自立と社会参加の力を育てる教育課程の編成と授業改善をさらに進める。 【個別の指導計画等】 ◆的確な実態把握に基づく指導目標の設定やよりよい評価の在り方を引き続き検討し、系統性のある指導を行うとともに、教育課程の評価と改善につなぐ。 【地域連携】 ◆地域との連携・協働による授業実践をさらに進め、地域住民や保護者等の参加による多様な授業づくりが継続的に実施できるよう教育課程の改善につなぐ。 【進路指導】 ◆本校が継続して取り組んできた進路指導をさらに充実発展させるとともに、一人一人の希望進路の実現を目指し、キャリア教育の視点をもって全学部において系統的な指導や取組を行う。 【防災教育】 ◆実行的・持続的な校内の防災対策や安全・防災教育をさらに充実させるとともに、中長期的視野に立った計画を策定し、実施する。 【センター的機能】 ◆関係機関との連携を密にして、地域のセンター的機能をさらに発揮し、乳幼児期から社会参加までの切れ目のない支援のさらなる充実に図る。 【研修】 ◆多様な教育的ニーズに応じた確かな指導、支援やICTの利活用による社会の変化に対応した授業づくり等をさらに進めるため、全教職員の専門性や資質を高めるニーズに応じた研修を年間通じて実施する 【組織運営】 ◆各分掌部長等が中心となり、より効率的な学校運営を目指すとともに、児童生徒の成長につながる行事や取組を進め、教育活動全般のさらなる改善を図る。 【広報活動】 ◆ホームページのさらなる充実に努めるとともに、保護者連絡ツールやSNS等を通して積極的に広報活動を行う等、効果的に本校の教育活動を発信する。 【業務改善】 ◆ICT等の活用により、さらなる業務の効率化を図るとともに、全教職員がやりがいをもって業務にあたることができるような取組を進める。 【コンプライアンス】 ◆コンプライアンスに係る意識を高め、引き続き府民の信頼を得られるように努める。

評価領域		重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	組織運営	- 各分掌部長等が中心となり、より効率的な学校運営を目指すとともに、児童生徒の成長につながる行事や取組を進め、教育活動全般のさらなる改善を図る。 - コンプライアンスに係る意識を高め、引き続き府民の信頼を得られるように努める。	- 各学部や分掌等において組織的に業務を進めるとともに、実務を通して授業実践や業務をつなぐ。 - 教務部長の各学部における位置づけと業務内容を見直し、12年間つながりある教育実践が円滑に進むよう学部間や教職間等の連絡調整及び環境調整等を行う。 - 各学部において、役割を明確にしたり情報共有の仕方を工夫したりして、円滑に連携・協働できる体制づくりを進める。 - 校内外における研修等を生かし、組織力の向上を図るとともに人権意識の向上を図る。 - 就修学支援部や生徒指導部等が中心となり、必要に応じて校内ケース会議を実施し、児童生徒の情報共有や課題の明確化、具体的な指導内容の確認等を行う。 - 児童生徒が主体的に生活できる環境づくりを目指すとともに、寄宿舎生活と地域社会を繋げ、寄宿舎教育の充実を図り、保護者等と協働して、寄宿舎の生活づくりを進める。				
	業務改善	働き方改革に係る業務の効率化を図るとともに、全教職員がやりがいをもって業務にあたることのできるよう様々な取組を進める。	- 円滑に連携・協働できる体制づくりをさらに進め、働きがいのある職場環境をつくる。 - 組織的、計画的に業務を進めるとともにICTのさらなる活用を推進し、会議、環境、業務内容等の改善を図り、効果的、効率的な運営を行う。				
	学校安全	校内の防災対策や安全・防災教育を発生時の被害をより具体的に想定しつつさらに充実させるとともに、中長期的視野に立った計画を策定し、実施する。	- 各訓練等の成果と課題や専門家の意見等を踏まえつつ、地域の災害リスクを踏まえた重大災害時マニュアルや不審者対応マニュアルについてさらなる見直しを図る。 - 学校安全の中核を担う教員の位置づけを明確にし、児童生徒が考えて行動する避難訓練や不足の事態を想定した避難訓練、緊急時引き渡しカードを活用した保護者等との協働による訓練等、実効的・持続的な取組を行う。 - 医療的ケアの必要な児童や食物アレルギーのある児童生徒、配慮を必要とする児童生徒等の対応について、校内において丁寧に情報共有するとともに対応について協議する。また、全教職員の専門性の向上に向けた研修を実施する。 - 校内における安全点検のあり方を見直すとともにAEDを含む心肺蘇生法など応急手当に関する研修等をさらに進め、全教職員の危機管理意識を高め、適切な対応ができるよう研修を実施する。 - 児童生徒の安心・安全な学校生活に向けて、状況に応じた感染症予防対策を講じたり、食に関する指導の校内基本確認事項の確認や見直しを図ったりする。				
	広報活動	ホームページのさらなる充実を図るとともに、保護者連絡ツールやSNS等を通して積極的に広報活動を行う等、効果的に本校の教育活動を発信する。	- ホームページやSNS等によるさらなる情報発信に努め、校内の教育活動をタイムリーに発信する。 - 地域住民や保護者等とともに体験したり活動したりする場を設けるなど、積極的に本校の教育を発信する機会をつくる。				
教育課程・学習	教育課程	小学部から高等部の12年間や卒業後の生活や就労、校種間等の学びの連続性を踏まえ、児童生徒の能力や可能性を最大限に引き出し、社会の変化に応じた自立と社会参加の力を育てる教育課程の編成と授業改善をさらに進める。	- 各プロジェクトを立ち上げ、これまでの行事や各取組間に関連づけたり統合したりしつつ、社会の変化に応じた児童生徒の成長につながる12年間つながりある行事や取組を行う。 - 多様化・複雑化する児童生徒の実態を踏まえつつ、全校の集団活動を推進するとともに、社会情勢に応じた日常的な指導（情報モラル、薬物、交通安全）を丁寧に行う。 - 指導略案の形式を変更し、児童生徒につけたい力を明確にした授業実践を行うとともに、単元計画表をもとに年間を見通した計画的な授業実践を行う。 - 教務部と研究部の連携・協働を進め、地域とつながる教育実践を				

指導			さらに進める。 ・国語科を中心に図書室のあり方を検討し、児童生徒が本に親しむ環境づくりを行う。				
	個別の指導計画等	・的確な実態把握に基づく指導目標の設定やよりよい評価の在り方を引き続き検討し、系統性のある指導を行うとともに、教育課程の評価と改善につなぐ。	・的確な実態把握のもと、指導目標や指導内容、指導方法を明確にし、保護者や関係機関、指導者間で共通理解を図り、系統性のあるきめ細やかな指導、支援を行う。 ・個別の指導計画をもとに、各教科等における指導、支援のあり方を検討するとともに、児童生徒の学びの状況から、中長期的な視点ももちつつ目標設定や授業展開等を見直し改善を図る。				
	授業研究	・地域との連携・協働による授業実践をさらに進め、地域住民の参加による多様な授業づくりが継続的に実施できるよう教育課程の改善につなぐ。	・キャリアステップ表や学習テーマ一覧表を引き続き活用し、さらなる実践を積み重ね、学部や校内における研究会にて共有することで、実践の発展へとつなぐ。 ・学校運営協議会の仕組みを活用するなどして、地域人材へのネットワークを広げ実践に生かす。				
	進路指導	・本校が継続して取り組んできた進路指導をさらに充実発展させるとともに、一人一人の希望進路の実現を目指し、キャリア教育の視点をもって全学部において系統的な指導や取組を行う。	・丹後圏域福祉事業所や専門校等の説明会について、資料の内容や提示の仕方等をさらに工夫して実施するなど、小学部段階から保護者等が卒業後の生活や就労にイメージがもてるよう取組を進める。 ・進路指導だよりを定期的に発行するなどして、保護者や地域進路指導について発信する機会を増やす。 ・キャリア・パスポートを作成し、学習や生活を見通したり学んだことを振り返ったりすることで、新たな意欲や将来について考える機会へつなぐ。				
	研修	・多様な教育的ニーズに応じた確かな指導、支援やICTの利活用による社会の変化に対応した授業づくりをさらに進めるため、専門性や資質を高める教職員のニーズに応じた研修を年間通じて実施する。	・研修プロジェクトを立ち上げ、教務部長や研究部長、情報教育部長、自立活動部長等を中心に、教職員研修のあり方を見直す。 ・従来から行ってきた校内研修や教職員のニーズに応じた研修、ICTの利活用など社会の変化に応じた内容について年間を通して効率よく学ぶための「与謝の海学びプログラム」を構成し、全教職員の専門性や資質の向上を図る。				
地域連携	地域支援	・関係機関との連携を密にして、地域のセンター的機能をさらに発揮し、乳幼児期から社会参加までの切れ目のない支援のさらなる充実を図る。	・地域の関係機関等とのさらなる連携、協働を図り、地域全体の支援力向上につなぐ。 ・巡回相談員による相談活動の機会を増やし、地域のセンター的機能のさらなる向上につなぐ。				
	地域協働	・学校運営協議会の仕組みを活用し、地域とともにある学校づくりについて検討を進める。	・昨年度の成果を生かし、学校運営協議会の場を通して、地域住民や教職員、保護者等が地域とともにある学校づくりについて話し合う機会を設定する。 ・保護者等や地域住民が参画できる行事や取組となるよう工夫し、場や体験を共有することでつながりを構築し、共生社会の実現につなぐ。				

学校運営協議会委員による評価	
次年度に向けた改善の方向性	